



ツクシシャクナゲ

[筑紫石楠花]

5本の樹

常緑 / 中高木 / 木本植物 / 在来種



科名 ツツジ科 (APGⅢ)

特記 生長：やや遅い

4～6月に枝先に多数の花を華やかにつける。淡紅紫色(時折白色)の花弁は7裂し、花、葉ともに枝先に集まるように密生する。紀伊半島以西の本州、四国南部、九州に自生する日本固有種。在来種のシャクナゲのなかでは一番丈夫で育てやすい。また、最も大きく生育する。



葉



花



実



葉の表裏

Memo

樹名は、九州に多くの自生地があることから、古事記で九州を意味する「筑紫島」に由来する。

お手入れカレンダー	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
花	期				■								
果	実	(花後にできる 蒴果(さくか)は花殻とともに除去する)											
紅	葉												
施	肥	■ (緩効性肥料がよい)							■ (花後早めに)				
剪	定						■ (花後早めに)						
★: 花芽分化の時期 (分化後に剪定すると花付が少なくなる)													

好みの環境					
日当り	陽	○	○	○	陰
土 壤	乾		○	○	湿
寒 さ	強	○			弱
暑 さ	強			○	弱
潮 風	強			○	弱

観賞ポイント	姿	花	葉	紅葉	黄葉	実	香
	○	○					

ポイント

夏は半日陰になる環境が適している。根に直射日光が当たると高温障害を起こしやすいため、マルチング材などで覆い保護する。酸性土壌を好むので鹿沼土やピートモスで調整するとよい。

剪定

生長は比較的遅く枝先に花をつける。刈り込まずに飛び出した枝を切り戻す程度にすると花をたくさん咲かせる。今年咲かなかった枝は翌年の開花枝として残す。花後、花殻を取り除くとよい。

病虫害

ハマキムシ、グンバイムシなどツツジ科植物共通の被害を受ける。風通しが悪いとカイガラムシが発生、夏の強い日差しを受けると褐斑病など葉に病害を生じやすい。

呼べる蝶 コツバメ・ヒメシジミ

